

別表第2 建築物に係る温室効果ガスの排出抑制等のための措置

事項	措置の例
熱の損失の防止に関する事項	<p>外壁の方位、室の配置計画、外壁及び窓などの断熱性の向上、日射熱負荷の低減などによる建築物の熱損失の防止を図る。</p> <p>(例) 断熱の仕様(外断熱、断熱材、厚さ、熱抵抗値)、ペアガラス、庇、エアフローウィンドー、ルーバー、屋上緑化、高反射率塗料 等</p>
エネルギーの効率的な利用に関する事項	<p>【設備システムの高効率化】</p> <p>空調、換気、照明、給湯、昇降機などの設備機器について、エネルギー効率の高いシステムを採用することなどによる省エネルギー化を図る。</p> <p>(例) 高効率照明器具、高効率給湯器、インバータ制御、燃料電池、コージェネレーション等</p>
	<p>【エネルギーの効率的な運用】</p> <p>エネルギー消費量の計測、エネルギー管理の体制の整備などによる、設備機器の効率的な運用を図る。</p> <p>電気を使用する設備や空気調和設備等を総合的に管理し評価するビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)を導入する。</p>
再生可能エネルギーの導入に関する事項	<p>自然採光、自然換気及び通気の活用、太陽光の利用、蓄電システムなど再生可能エネルギーを有効に利用する。</p> <p>(例) 自然採光：ライトシェルフ、トップライト 等 自然通風：自動ダンパー、ナイトパージ 等 太陽光利用：太陽光パネル、太陽熱温水器 等 バイオマス熱利用：薪ストーブ、ペレットストーブ 等</p>
未利用エネルギーの導入に関する事項	<p>当該建築物及びその敷地内で発生する廃熱、温度差エネルギーその他の未利用で利用可能なエネルギーを有効に利用する。</p> <p>(例) 地中熱、井水、下水熱等を利用したヒートポンプ空調システム 等</p>
その他	<p>【水資源の保護】</p> <p>節水型機器の採用、雨水利用システム及び雑排水再利用システムの導入などによる水資源の保護を図る。</p> <p>(例) 雨水利用：雨水貯留施設</p>
	<p>【低環境負荷材の利用】</p> <p>再生資材の利用、リサイクルが容易な材料、健康被害や環境影響の少ない材料の利用などによる、資源及び資材の利用の適正化を図る。</p> <p>(例) 躯体への再生資材の利用：電炉鋼、高炉セメント、再生骨材 等 再生建築資材の利用：下水道汚泥、廃ガラス、木屑等を原材とした資材</p>
	<p>【フロン類の使用抑制】</p> <p>空気調和設備においては、ノンフロン製品又は地球温暖化係数の小さい代替フロンを使用した製品を導入する。</p>

	<p>【耐久性及び信頼性の確保】 耐震性や免震性能の確保、耐用年数の高い部品及び部材の採用、災害時及び緊急時に対応できる設備機器の導入の計画などによる耐久性及び信頼性の確保を図る。 (例) 耐久性に優れた材料、耐久性を高める工法</p>
	<p>【用途変更や設備更新への対応性の確保】 室内の空間形状や荷重のゆとり、設備の更新を考慮した建物設計などによる、用途変更や設備更新への対応性の確保を図る。 (例) 階高、設計荷重、モジュール化等</p>
	<p>【県産木材の利用】 住宅や公共施設等に幅広く利用し、また、コンクリート製品の代わりに県産木材を活用した製品を利用する。</p>
	<p>【緑化】 緑化あるいはヒートアイランド対策の観点から庭や敷地内に植樹などを行う。 (例) 屋上緑化、壁面緑化、外構緑化</p>